

① 漢和辞典で「頭」という漢字の意味を調べると、次のように出ていました。あとの**ア**と**イ**に使われている「頭」の意味を、次の**1**から**5**の中からそれぞれ**一つ**選びなさい。

【漢和辞典】

- 1 首から上の部分。
- 2 上に立つ者。
- 3 はじめ。
- 4 動物を数える単位。
- 5 ほとり。付近。

答え【ア】

答え【イ】

ア 街頭 イ 年頭

② 次の①の文を、意味は変えずに「私」を主語にした文に書き換えると、「祖母が」、「頼んだ」はそれぞれどのようになりますか。

- ① 祖母が私に庭の草取りを頼んだ。
- ② 私は祖母 **A** 庭の草取りを **B**。

答え【A】

答え【B】

③ 山本さんは、前の書写の時間に、行書で「綿雲」という文字を書きました。今日は、そのときの【先生の助言】を生かして書き直すことができました。山本さんが書き直したものとして最も適切なものを、あとの**1**から**4**までの中から**一つ**選びなさい。

綿雲

字形を整えて書くことができましたね。行書の特徴である「点画の連続と省略」に気を付けて、「雲」を書いてみましょう。「綿」と「雲」の文字の中心がずれているので、そろえて書くことで全体が整って見えますよ。

【前の書写の時間に書いた文字】

【先生の助言】

綿雲

綿雲

答え

綿雲

綿雲

④ 次の百人一首の札の  に当てはまるものを、【現代語訳】を参考にして、あとの**1**から**4**までの中から**一つ**選びなさい。



【現代語訳】

あなたにさしあげようと思って、春の野に出て若葉をつんでいるこの私の袖に、まだ雪がちらちら降りかかっているのですよ。

1 富士の高嶺に雪はふりつつ

2 わが衣手に雪はふりつつ

3 ふしのたかねにゆきはふりつつ

4 わかころもてにゆきはふりつつ

3 ふりゆくものはわが身なりけり

4 よしののりにふれる白雪

3 ふりゆくものはわかみなりけり

4 よしののさとにふれるしらゆき

答え

⑤ 次の三つの漢字は、部首が同じで、意味の上でも共通点があります。共通点の説明として最も適切なものを、あとの**1**から**4**までの中から**一つ**選びなさい。

情 慣 快

- 1 土地の形状に関連する意味を表す。
- 2 心の動きに関連する意味を表す。
- 3 建物や部屋に関連する意味を表す。
- 4 言葉を使った活動に関連する意味を表す。

答え

⑥ 西村さんは、劇の発表会のポスターの下書きをしました。分らなかった漢字は、あとで調べようと思って、ひらがなで書きました。次の問いに答えましょう。

① 部「かいじょう」を辞書で調べてみたところ、次のように書いてありました。

- ア「」 会議や集まりなどが行われる場所。
- イ「海上」 海の上。海面。
- ウ「」 集会や行事などをする場所を開いて人を入れること。
- エ「階上」 二階以上の建物の上の階。

(1) アとウの「」に当てはまる漢字をていねいに書きましよう。

ア「」

ウ「」

答え

答え

☆劇の発表会のお知らせ☆

つゆくさ小学校6年1組一同 わたしたち6年1組では、劇の発表会をすることになりました。

- 〈発表する作品〉『海と鳥』（谷口 進 作）
- 1 発表の日：平成20年6月4日(水)
- 2 時間：午後2時から午後3時まで
- 3 場所：つゆくさ小学校体育館

① **かいじょう** は、30分前

② **かえり** のときには、感じたことや気づいたことをアンケートに書いてください。

(2) 部「かいじょう」を漢字に直すと、アからエまでのどの漢字になりますか。正しいものをアからエまでの中から**一つ**選んで、その記号を書きましよう。

二 部「かえ」を漢字に直して、ていねいに書きましよう。

7 松本さんの学級では、新入生に向けて、これからの学校生活の参考となるように「今、夢中になっていること」という題で文章を書くことになりました。次は、**【松本さんが書いた下書き】**です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【松本さんが書いた下書き】

今、夢中になっていること、それは部活動です。  
 中学校に入学して、初めて吹奏楽部の生の演奏を聞いたとき、体中に響いてくる音の迫力に圧倒されました。そして、迷わず吹奏楽部に入学しました。その後、私の担当はフルートに決まりました。それから、自分でも驚くほどフルートに夢中になっていいます。先日、そばで聞いていた友達から「うまくなったね。」と言いました。そのとき、音が出るまで苦労したけれど、あきらめずに続けていてよかったですと思いました。今、私たちは全国大会出場に向けて練習していて、三年生にとって最大の目標です。皆さんも中学校生活の中で、自分が全力で打ち込めることを探してみてください。きっと毎日が楽しく充実したものになるはずです。

一 下書きを読み直した松本さんは、**線部**「そばで聞いていた友達から『うまくなったね。』と言いました」の部分の「友達から」と「言いました」との言葉の関係が不適切なことに気づきました。本文中の推敲すいこうの仕方にならって、「言いました」の部分の部分を適切に書き直しなさい。

答え

二 線部「今、私たちは全国大会出場に向けて練習していて、三年生にとって最大の目標です。」には、二つの内容が含まれています。意味は変えずに**二つの文**に分けて書きなさい。なお、二文めには「目標です」に対応する主語を補いなさい。

【一文め】

【二文め】

目標です。

8 次は、中国の『戦国策』という本にある話の一部分 **【A】**と、その話についての解説 **【B】**です。これらを読んであとの問いに答えなさい。

**【A】** 虎が森のなかで狐をつかまえ、さっそくムシヤムシヤやろうとすると、狐がいった。

「これこれ虎よ。わしは、百獣の王として、天からこの森につかわされたものじゃ。そのわしを食うおまえは、天にさからうつもりか？」

虎はどぎもをぬかれたが、まさか、こんな弱そうな獣が王とは思えないので、首をかしげてしまった。

それを見て、狐はつづけた。  
 「わしのいうことが本気にできないのじゃな。よし、ではおまえは、わしのあとについてきてみるがよい。森の獣たちが、わしに会ってどうするか、よく見とどければわかるじゃろう。」

虎はなるほどと思い、狐のあとにくっついていった。  
 森の獣たちは虎の姿を見て、みな命から逃げだすのであった。狐がどくとくとくとして、

「どうじゃ、わしをおそれぬものがあるか？」  
 という、虎はおそれいって答えた。

「全く、あなたのご威風（注3）はたいしたものですよ。すっかりお見それいたしました。」

（注1）どぎもをぬかれた。非常に驚かされた。（注2）どくとくとくとして。得意げな顔をして。（注3）威風のある様子。

**【B】** 当時の中国は、七つの国が天下を争っていた。その中の一つ、楚の国の王様は、強大な力をもっていた。しかし、実質的な指図をしていたのは、王様が任命した宰相さいしやう（王様を補佐する人）だった。ある日、王様が家臣たちに、

「他の国々では、わたしよりも宰相をおそれているといううわさを聞いているが、本当なのか。」と尋ねた。これに対して、魏の国から来ていた江乙（注1）という人が答えるときに用いたのが **【A】** のたとえ話である。

一 線部 **【A】** のたとえ話」とありますが、江乙 **【虎】** は、だれのことを「虎」に、だれのことを「狐」にたとえたのですか。次の1から4の中から、最も適切なものをそれぞれ**一つ**選びなさい。

1 宰相 2 江乙 3 王様 4 家臣

【虎】

二 **【A】** のたとえ話から「虎の威を借る狐」という言葉が生まれました。次の1から4のうち、この言葉の意味として最も適切なものを**一つ**選びなさい。

1 他人の弱さを利用して都合よく事を進めること。  
 2 他人の権力や権勢などをかさに着ていばるること。  
 3 他人の行動をよく見て自分の行動を改めること。  
 4 他人の失敗や苦勞に対し心からなぐさめること。

【狐】

9 本の目次について、あとの問いに答えなさい。

一 目次の特徴と目次を使ってできることの例として最も適切なものを、次の1から4までのの中から**一つ**選びなさい。

1 本に出てくる重要な語句が五十音順に並べられているので、必要な情報を見付けることができる。  
 2 本の構成やおおまかな内容が示されているので、必要な情報がどこにあるのか見当を付けることができる。  
 3 筆者が本を書いたきっかけやねらいなどが書かれているので、筆者の伝えたいことを的確につかむことができる。  
 4 筆者、発行年月日などがまとめて記されているので、だれがこの本を書いていつ出版されたのかを知ることができる。

【目次】

二 次のページに示すのは、『私たちと水』という本の目次です。この本を用いて、「お風呂の水を洗濯に使うなどの身近な水の節約例」について調べたいと思います。調べたいことは、この本の第何章に書かれていると考えられますか。最も適切なものを、次の1から4までのの中から**一つ**選びなさい。

1 第一章  
 2 第二章  
 3 第三章  
 4 第四章

【水】

第一章 私たちの水はどこから来るのか	2
第一節 地上から――川を流れてくる水	2
第二節 地下から――わき水や井戸水	15
第三節 空から――雨水	32
第二章 私たちの周りで水はどのように使われているのか	48
第一節 飲み水	48
第二節 作物を育てる水	58
第三節 工業に使う水	69
第三章 私たちの水はどこへ行くのか	81
第一節 処理される下水	81
第二節 川や海に戻る水	97
第四章 私たちは水とどう付き合っていくべきか	112
第一節 限りある水資源	112
第二節 自治体や企業での取り組み	132
第三節 個人や家庭での取り組み	150

10 中学生の川名さんは、小学生に「二ひきの蛙」を朗読することになりました。次は、【朗読する物語】と朗読するために気を付けることを書いた【川名さんのメモ】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

**【川名さんのメモ】**

○……朗読の仕方の工夫  
▼……理由

○ 「黄色だね」のあとに間を取って、からかうような口調で読む。

▼ はたけでばったりゆきあつた二ひきの蛙が、けんかを始めるきっかけになる言葉だから。

**【朗読する物語】** 新美 南吉

二ひきの蛙

緑の蛙と黄色の蛙が、はたけのまんなかでばったりゆきあいました。

「やあ、きみは黄色だね。きたない色だ。」

「きみは緑だね。きみはじぶんを美しいと思っているのかね。」

と黄色の蛙がいきました。

こんなふうに話しあっていると、よいことは起こりません。二ひきの蛙はどうとうけんかをはじめました。

緑の蛙は黄色の蛙の上にとびかかっています。この蛙はとびかかるのが得意でありました。

黄色の蛙はあとあしで砂をけとばしましたので、あいてはたびたび目玉から砂をはらわねばなりませんでした。

するとそのとき、寒い風がふいてきました。

二ひきの蛙は、もうすぐ冬のやってくることをおもいました。蛙たちは土の中にくって寒い冬をこさねばならないのです。

「春になったら、このけんかの勝負をつける。」

といて、緑の蛙は土にもぐりました。

「いまいったことをわすれるな。」

といて、黄色の蛙ももぐりこみました。

寒い冬がやってきました。蛙たちのもぐっている土の上に、びゅうびゅうと北風がふいたり、霜柱が立つたりしました。

そしてそれから、春がめぐってきました。

土の中にくわっていた蛙たちは、せなかの上の土があたかくなってきたのでわかりました。

さしよに、緑の蛙が目を見ました。土の上に出てみました。まだほかの蛙は出ていません。

「おいおい、おきたまえ。もう春だよ。」

と土の中にくわってよびました。

すると、黄色の蛙が、

「やれやれ、春になったか。」

といて、土から出てきました。

「去年のけんか、わすれたか。」

と緑の蛙がいきました。

「待て待て。からだの上をあらいおとしてからにしようぜ。」

と黄色の蛙がいきました。

二ひきの蛙は、からだから泥土をおとすために、池のほうにいきました。

池には新しくわきて、ラムネのようにすがすがしい水がいっぱいいたたえられてありました。そのなかへ蛙たちは、とぶんとぶんとびこみました。

からだをあらってから緑の蛙が目をはくりさせて、

「やあ、きみの黄色は美しい。」

といました。

「そういえば、きみの緑だつてすばらしいよ。」

と黄色の蛙がいきました。

そこで二ひきの蛙は、

「もうけんかはよそ？」

といいあいました。

よくねむったあとでは、人間でも蛙でも、きげんがよくなるものであります。

(新美南吉「二ひきの蛙」による)

1 この物語に描かれている季節を、次の1から4までのなかからすへて選びなさい。

- 1 春
- 2 夏
- 3 秋
- 4 冬

答え

2 川名さんは、緑の蛙が話した言葉の朗読の仕方について考えています。あなたなら、――線部『やあ、きみの黄色は美しい。』をどのように工夫して朗読しますか。あなたの考える朗読の仕方の工夫とその理由を、次の**条件1**から**条件3**にしたがって書きなさい。

**条件1** 【川名さんのメモ】の書き方を参考にし、○には朗読の仕方の工夫を、▼にはその理由を書くこと。

**条件2** ▼は、物語の内容を踏まえ、物語の中の言葉を使って書くこと。

**条件3** ○は、十五字以上、三十字以内で、▼は、四十字以上、六十字以内で書くこと。

15			
30			

60	40		

